



2019 年度小学校教員資格認定試験

教科及び教職に関する科目 (Ⅱ)

図画工作

注 意 事 項

受験者は、下記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験運営大学の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 運営大学名、氏名、受験番号、受験科目を2019年度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号、受験科目をマークしてください。
ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
4. 解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
訂正するときは、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。 (よい例) 
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) 

以下の問いにおいて「小学校学習指導要領」とは、「『小学校学習指導要領』(平成29年3月文部科学省告示)第2章 第7節 図画工作」を指し、『小学校学習指導要領解説』とは、「文部科学省『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』(平成29年7月)」を指すものとする。

問1 次の文章は『小学校学習指導要領解説』の「第1章 総説 2 図画工作科の改訂の趣旨及び要点 (1)改訂の趣旨」に記述されたものの一部である。空欄の ① ~ ③ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ ① や ② 等を働かせて、表現したり鑑賞したりする資質・能力を相互に関連させながら育成できるように、内容の改善を図る。
- ・ 生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、 ③ についての理解を深める学習の充実を図る。

[語群] A 想像力 B 美術文化 C 感性 D 造形美術
 E 情操 F 感覚 G 創造性 H 五感

- ア ① H ② G ③ B
 イ ① C ② A ③ B
 ウ ① F ② E ③ D
 エ ① H ② A ③ D

問2 次の文章は「小学校学習指導要領」の「第1 目標」にある図画工作科の教科目標の一部である。空欄の ① ~ ④ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

表現及び鑑賞の活動を通して、 ① な見方・考え方を働かせ、 ② や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (2) ① なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、 ③ に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や ④ を深めたりすることができるようにする。

[語群] A 感性 B 生活 C 学校 D 創造的
 E 感じ方 F 造形的 G 考え方

- ア ① F ② B ③ D ④ E
 イ ① F ② C ③ D ④ G
 ウ ① D ② C ③ F ④ G
 エ ① D ② B ③ F ④ A

問 3 次の表は「小学校学習指導要領」の「第2 各学年の目標及び内容」に示された「知識及び技能」に関する各学年の目標をまとめたものである。空欄の ① ~ ⑤ に入る適切な語を [語群] から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

学 年	目 標
第1学年及び第2学年	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して ① とともに、 ② 働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
第3学年及び第4学年	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して ③ とともに、 ④ 働かせ材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。
第5学年及び第6学年	対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して ⑤ とともに、材料や用具を活用し、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。

[語群] A 確認する B 手や体全体の感覚などを C 気付く
D 手や体全体を十分に E 理解する F 分かる
G 体全体を H 指先の感覚を

ア ① A ② D ③ C ④ H ⑤ E
イ ① C ② H ③ F ④ B ⑤ A
ウ ① C ② B ③ F ④ D ⑤ E
エ ① F ② G ③ E ④ D ⑤ A

問 4 次の文は『小学校学習指導要領解説』の「第 2 章 図画工作科の目標及び内容 第 2 節 図画工作科の内容 2 各領域及び〔共通事項〕の内容」に示された「造形遊び」の説明である。空欄の ① ～ ③ に入る適切な語を〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

このような遊びがもつ ① な意義と、② で ③ な性格に着目し、その特性を生かした造形活動が「造形遊びをする」の内容である

〔語群〕 A 創造的 B 自律的 C 主体的
D 教育的 E 能動的

ア ① B ② E ③ A
イ ① D ② A ③ C
ウ ① D ② E ③ A
エ ① C ② B ③ E

問 5 『小学校学習指導要領解説』の「第 2 章 図画工作科の目標及び内容 第 2 節 図画工作科の内容 2 各領域及び〔共通事項〕の内容」に記述されている〔共通事項〕の説明として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 〔共通事項〕は〔共通事項〕だけを題材としたり、どの時間でも〔共通事項〕を教えるから授業を始めたりするなどの硬直的な指導を意図したものではない。

イ 〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の活動の中で、共通に必要な資質・能力である。

ウ 〔共通事項〕の「ア 形や色などに関する事項」は「思考力、判断力、表現力等」、 「イ イメージに関する事項」は「知識」として整理された。

エ 〔共通事項〕で示している内容は、形や色などを活用したコミュニケーションの基盤になるものである。

問 6 次の表は「小学校学習指導要領」の「第2 各学年の目標及び内容」に示された「B鑑賞」に関する各学年の内容をまとめたものである。空欄の ① ~ ⑥ に入る適切な語を〔語群〕から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

学 年	内 容
第1学年及び第2学年	① 作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や ② などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
第3学年及び第4学年	③ 作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品や身近な美術作品、 ④ などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げること。
第5学年及び第6学年	⑤ 作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、 ⑥ などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。

〔語群〕 A 生活の中の B 身近にある C 生活の中の造形
 D 製作の過程 E 身近な材料 F 身の回りの
 G 親しみのある H 工芸品

ア ① B ② E ③ F ④ C ⑤ G ⑥ H
 イ ① F ② E ③ B ④ D ⑤ G ⑥ C
 ウ ① F ② C ③ B ④ D ⑤ A ⑥ H
 エ ① B ② D ③ G ④ H ⑤ A ⑥ C

問 7 次の文章は「小学校学習指導要領」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」にある指導計画の作成に当たって配慮する事項の一部である。空欄の ① ~ ③ に入る適切な語を [語群] から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(5) 第2の各学年の内容の「A表現」の指導については、適宜 ① つくりだす活動を取り上げるようにすること。

(6) 第2の各学年の内容の「B鑑賞」においては、② や美術作品などの ③ を踏まえて指導すること。

[語群] A 協力して B 共同して C 友だちの作品 D 自分たちの作品
E 本質 F 特質 G 特徴

ア ① B ② C ③ G

イ ① A ② C ③ E

ウ ① B ② D ③ F

エ ① A ② D ③ G

問 8 次の文章は「小学校学習指導要領」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」にある第2の内容の取扱いについて配慮する事項の一部である。空欄の ① ~ ③ に入る適切な語を [語群] から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

(7) 各学年の「A表現」の(1)のイ及び(2)のイについては、児童や学校の実態に応じて、児童が工夫して楽しめる程度の ① 経験や ② 経験ができるようにすること。

(8) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、児童や学校の実態に応じて、③ などを利用したり、連携を図ったりすること。

[語群] A デザインする B 焼成する C 構成的な D 展覧会
E 版に表す F 絵画の複製品 G 地域の美術館

ア ① E ② B ③ G

イ ① B ② A ③ G

ウ ① A ② C ③ D

エ ① E ② B ③ F

問 9 『小学校学習指導要領解説』の「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 4 学校としての鑑賞の環境づくり」に記述されている内容の趣旨として誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 作品を展示する際、児童の見やすさや、耐久性や安全性に十分に配慮する必要がある。
- イ 展示は、児童の作品を通して学校と保護者や地域の連携を深める効果がある。
- ウ 児童の作品の展示については、作品だけでなく、表現の過程を写真やビデオなどで記録したものを紹介するなどの方法が考えられる。
- エ 作品の破損等为了避免するために、学外での作品展示は極力避けるべきである。

問10 日本の美術教育史について述べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 日本の図画教育における最初の国定教科書は『毛筆画帖』である。
- イ 日本の美術教育に多大な影響を与えた書籍は、ハーバート・リードの『芸術と教育』である。
- ウ 昭和初期の図画教育実践者として島根県馬木小学校の青木実三郎がいる。
- エ 造形遊びは平成10年改訂の学習指導要領に初めて登場した。

問11 水彩画を描く用具の使い方の指導に関して述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア パレットには個別の色の絵具を出す狭い仕切りとそれらを混色する際に使用する広い仕切りがあり、使い分けるように指導する。
- イ 筆には丸筆と平筆があり、丸筆には様々な太さのものがある。それらを表現にあわせて使い分けるように指導する。
- ウ 複数に仕切られた筆洗(水入れ)を使用させる場合、広いところを筆の絵具を洗い落とすための水、それ以外のところを筆をすすぐための水、絵具の水分を調整するための水として使用し、常に綺麗な水で混色ができるように指導する。
- エ 筆は根元までよく洗えるように、筆洗(水入れ)の中に常に差し込んでおくように指導する。

問12 デザインに関する用語について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 明朝体はおおむね縦線に対して横線が細く、横線の終筆に三角形の装飾を持つ和文書体である。
- イ サンセリフ体は縦線・横線の太さがおおむね均一で、装飾をできるだけ排除した欧文書体である。
- ウ 一般に絵文字などと呼ばれる、情報や注意を表示するための視覚記号をヒストグラムという。
- エ インクを微滴化し、被印字媒体に直接吹き付けて印刷する方法をインクジェットプリントという。

問13 次の文章の空欄 ① ~ ④ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

複数の色を混ぜて別の色を作ることを混色という。カラー印刷のように色料を用いる場合、①の三原色を重ねるほど、得られる色は暗くなり、黒に近づいていく。このような色料による混色を②という。また、液晶モニターのように発光色を用いる場合、③の三原色を重ねるほど、得られる色は明るくなり、白に近づいていく。このような光による混色を④という。

- [語群] A 加法混色 B 減法混色 C レッド・グリーン・イエロー
D レッド・グリーン・ブルー E シアン・マゼンタ・イエロー

- ア ① C ② B ③ E ④ A
- イ ① E ② B ③ D ④ A
- ウ ① E ② A ③ C ④ B
- エ ① D ② A ③ E ④ B

問14 はさみや小刀類に関する指導の観点について述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「技能」の育成の観点から、手の延長のように用具を使って表し方を工夫している姿、自分の手や体の動きから生まれる線を楽しむなどの姿を捉え、指導と評価に活かすことが重要である。
- イ はさみは体とほぼ垂直の関係を保つように脇をつけて安定させ、刃の付け根から切り始め、そのまま刃先まで大きく使って切り落とすよう指導することが重要である。
- ウ 紙工作用のはさみで、アルミ缶や針金などの硬い素材を切断すると刃を傷つけるため、素材に合わせたはさみを用意し、児童の利き手にも留意して準備することが重要である。
- エ 工作用カッターナイフで直線を切断する場合、机などを傷つけないようカッターマットを敷かせ、薄い金属板が貼り付けてあるカッター用定規や裁ち板を使わせることが望ましい。

問15 紙について述べたものとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア ケント紙は適度に粗い表面を持ち、画用紙はそれより平滑な表面が特徴である。
- イ A5サイズとB5サイズの紙を比べた場合、A5サイズの紙の方がひとまわり大きい。
- ウ A列判のサイズは江戸時代の美濃判、B列判のサイズはドイツの工業規格に由来する。
- エ 短辺と長辺の比率は、A列判とB列判のどちらも同じく1：1.414である。

問16 テラコッタの製作技法に関して述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「玉作り」は、粘土の塊の中央に指でくぼみをつくり、延ばしたり押さえたりして、次第に周囲の壁を薄くしながら形成する方法である。
- イ 「ひも作り」は、粘土をあらかじめひも状に延ばし、中央に空洞を作りながら、螺旋状に積み重ねていく技法である。
- ウ 「芯抜き」は、リング状の粘土を重ねて形成する技法であり、大きな作品を制作するのに有効的な技法である。
- エ 「板作り」は、粘土を薄い板状にし、円筒型や円錐型に丸めて形成する方法である。

問17 次の文章の空欄 ① ~ ③ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

クロッキー(仏: croquis)は、多くの場合、描画材と紙を用いて絵画的な手法で行われるが、これを粘土などの ① を用いて ② 手法で行う場合が粘土クロッキーである。粘土クロッキーでは、対象から感じ取ったことを指先や掌で確かめながら材料に働きかけ、立体として表していくため、絵画的クロッキーよりも、さらに ③ な対象把握が伴うことになる。

[語群] A 可塑性材 B テラコッタ C 間接的
D 構成的 E 彫刻的 F 触覚的

- ア ① A ② D ③ C
イ ① A ② E ③ F
ウ ① B ② E ③ C
エ ① B ② D ③ F

問18 次の文章の空欄 ① ~ ③ に入る適切な語を[語群]から選択し、その組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

① の頭には、平らな面と少し膨らみをもった面がある。板などに釘を打ち込むとき、はじめに ② で釘を打っていき、最後に ③ で釘を打ち込むと板に傷を付けることなく、釘の頭までしっかりと打ち込むことができる。

[語群] A 片口玄翁 B 両口玄翁 C 平らな面 D 膨らみのある面

- ア ① A ② C ③ D
イ ① A ② D ③ C
ウ ① B ② C ③ D
エ ① B ② D ③ C

問19 日本美術の画家と代表作の組合せとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

	画家名	代表作
ア	狩野永徳	唐獅子図屏風(右隻)
イ	渡辺崋山	見返り美人図
ウ	雪舟	四季山水図
エ	酒井抱一	夏秋草図屏風

問20 20世紀に活躍した画家サルバドル・ダリについて述べたものとして誤っているものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア スペインのカタルーニャ地方に生まれた。
- イ シュールレアリスム(超現実主義)の画家である。
- ウ 代表作は《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも》である。
- エ フロイトの「夢判断」に大きく影響を受けた。